

「北の住まいるタウン」の 基本的な考え方

見直しの概要

見直しのポイント

- これまでの検討協議会でのご意見、各取組により得られた知見、近年の社会情勢の変化などを反映（全体）
- 「北の住まいるタウン」の目指す姿を分かりやすく整理（Ⅲ章）
- 取組の方向性について、「コンパクトなまちづくり」、「脱炭素化・資源循環」、「暮らしやすさの向上」に表記を見直すとともに、「災害に強いまちづくり」を追加（Ⅲ、Ⅳ章）
- 取組の進め方について、手順や推進ポイントを整理するとともに、モデル市町村の事例を参考として記載（Ⅲ章）
- 地域を支える多様な主体として、「大学などの教育研究機関」を明記するとともに、「地域づくりを支える連携」の項目を追加（Ⅴ章）
- 検討協議会などの経緯、用語解説、SDGsの目標を巻末に参考資料として添付

本日の検討協議会では、主にⅢ章（北の住まいるタウンの目指す姿）、Ⅳ章（北の住まいるタウンの取組）、Ⅴ章（北の住まいるタウンの実現に向けて）について、ご意見を賜りたいと思います。

I. はじめに

1. 策定の趣旨 (P1)

- 「北の住まいるタウン」についての定義づけ
- 「考え方」策定以降の「実践ガイドブック」の作成やメイヤーズフォーラム、まちづくりセミナー、事例見学会などこれまでの取組を記載
- 近年の自然災害の頻発化や脱炭素化、デジタル化、新型コロナウイルス感染症の影響、SDGsの推進など社会情勢の変化を踏まえた新たな視点を加えるなど、今回の「考え方」の充実に至った経緯を記載

2. 「北の住まいるタウン」の基本的な考え方の位置づけ (追加)

(P1)

- 上位計画である「北海道総合計画」の政策展開の基本方向に沿った「特定分野別計画」に位置づけられていることを記載
- 北海道SDGs推進ビジョンに基づき、取組ごとにSDGsの目標を示す旨記載

- 策定の趣旨をわかりやすく説明
- 策定後から今までの普及啓発として実施した取組を解説
- 「考え方」の見直しに至った経緯を記載

- 「北海道総合計画」との関連について記載
- 取組とSDGsの関連付け

II. 北海道の現状と課題

1. 北海道の現状と課題 (P3~P12)

- 策定時(H28)の記載内容（人口、将来人口、経済指数など）について時点修正
- 現状と課題に自然災害リスク、地球環境問題、道内の地域交通・物流について追加

2. 北海道の優位性 (P13~P16)

- 策定時(H28)の記載内容（食料自給率、エネルギー資源本道シェアなど）について時点修正
- 地理的特性、自然環境、食料自給力、豊富なエネルギー資源、寒冷地技術など、北海道の持つ優位性について内容を充実

3. 社会情勢の変化（追加） (P17~P22)

- 気候変動、SDGs、未来技術の進展、新型コロナ、国土強靱化など近年の社会情勢の変化に伴う道の動きについて新たに記載

- 策定時からのローリング
- 「北の住まいるタウン」の取組を進める上で、課題となる事項を整理

- 策定時からのローリング
- 「北の住まいるタウン」の取組を進める上で、道の高いポテンシャルを整理

- 「北の住まいるタウン」の取組を進める上で、考慮すべき近年の社会情勢について記載

Ⅲ. 北の住まいるタウンの目指す姿

1. 北の住まいるタウンの考え方と目指す姿（P23～P24）

- 現「考え方」の「趣旨」「目指す姿」を「考え方と目指す姿」としてまとめて記載
- 北海道の現状や課題に対し、「北海道が持つ優位性を活かし近年の社会情勢の変化や技術革新をうまく取り込みながら、地域特性に応じた取組を一体的に推進することで、多岐にわたる地域課題を解決する」という「北の住まいるタウン」の考え方について解説
- 北の住まいるタウンの「目指す姿」として『誰もが安心して心豊かに住み続けることができる、安全・安心で暮らしやすく、資源循環が進んだ効率的な都市構造を有するまち』を明記

2. 北の住まいるタウンの方向性（P25～P26）

- 「北の住まいるタウン」の実現に向け、「コンパクトなまちづくり」、「脱炭素化・資源循環」、「暮らしやすさの向上」※を取組の3つの視点として、それぞれの目指すべき地域像と取組の方向性を整理

※「生活を支える」を「暮らしやすさの向上」に変更

- 近年の自然災害の頻発化・激甚化を踏まえ、上記3つの視点に対し、防災の視点を加え、まちの防災力の向上を図る旨記載
- 目指す姿と方向性の体系図を追記

- 現「考え方」の「北の住まいるタウンの趣旨」の記載内容をわかりやすく再整理

○ //

○ //

- 現「考え方」の記載内容を再整理
3つの取組の柱とその目指すべき方向性を明記

- 今までの取組に加え、コミュニティづくり、移住定住、未来技術を活用した取組なども視点に追加しているため、名称を変更

- 防災WG(R1開催)の検討結果を取組に加味することを明記

- 現状と課題や優位性などと、本計画の取組、目指す姿の関係性を整理

IV. 北の住まいるタウンの取組

1. 取組方針 (P27)

- 北の住まいるタウンの実現に向け「コンパクトなまちづくり」「脱炭素化・資源循環」「暮らしやすさの向上」の3つの取組を掛け合わせて行うこと、「災害に強いまちづくり」を意識しながら連携・協力して進めていくことの重要性について記載

2. 取組のポイント (P27～P31)

- 取組ごとの記載内容（取組項目や効果、事例）を充実
- 各取組に対し関連するSDGsの目標を新たに記載

(1) コンパクトなまちづくり [P27～P28]

- ①市街地の無秩序な拡大抑制
 - ・立地適正化計画を活用したまちづくりに取り組みやすい環境整備について**追記**
- ④コミュニティ拠点の形成
 - ・災害時の避難所機能について**追記**
- ⑤空き地・空き家等のマネジメント
 - ・移住やワーケーションの受け皿としての活用、耐震化や環境性能の向上による移住定住の促進について**追記**
- ⑥**災害リスクを踏まえたコンパクト化 (追加)**
 - ・既存施設の再配置や新規施設整備にあたり、災害リスクの低いエリアへの誘導の考慮による防災力の向上について記載
- ⑦まちの魅力づくり
 - ・商店街の活性化や賑わいの創出による地域商業の活性化について**追記**

- 現「考え方」の「取組方針」をわかりやすく再整理

- 現「考え方」の記載内容の再整理
- 取組とSDGsの関連付け

- 国の制度活用について追加
- 防災WGの検討結果を追加

- 検討協議会及び防災WGの検討結果を追加

- 防災WGの検討結果を追加

- 社会情勢の変化（新型コロナの影響）による追加

IV. 北の住まいるタウンの取組

(2) 脱炭素化・資源循環 [P29]

- ①脱炭素化・資源循環に寄与するエネルギーの活用促進
 - ・再生可能エネルギーの災害時の活用方策の検討について追記
- ④建築物や住宅の省エネ化（追加）
 - ・建築物の省エネ性能の見える化やZ E B、Z E Hの普及促進による快適性や健康性の向上、防災・減災機能の向上
- ⑤地域でのエネルギー地産地消の取組（追加）
 - ・エネルギーの地産地消によるグリーン社会の実現に向けた脱炭素ビジネスの創出に伴う雇用の創出や地域経済の活性化、温室効果ガスの削減

(3) 「暮らしやすさの向上」 [P30～P31]

- ①安心して暮らせる地域づくり
 - ・安心して子育てできる社会の形成、ICTやAIなどの未来技術の活用による移住定住の促進や快適な暮らしの実現について追記
- ②地域を支えるコミュニティづくり（追加）
 - ・包括的な支援体制整備の検討、民間事業者と連携した生活支援サービスの実施による安心して暮らせる社会の形成
 - ・防災教育を通じたコミュニティづくり、民間事業者との防災協定など災害時のネットワークの体制づくりによる防災力の向上

○防災WGの検討結果を追加

○検討協議会の意見を踏まえ追加

○ //

○メイヤーズフォーラムの意見、社会情勢の変化（未来技術の活用）による追加

○検討協議会の意見を踏まえ追加

○防災WGの検討結果を追加

IV. 北の住まいるタウンの取組

(3) 暮らしやすさの向上 [P30～P31]

③生活交通や物流交通の確保

- ・デジタル技術の活用など利便性の向上によるストレスのない公共交通の確保による交通の利便性の向上について追記
- ・新技術の活用に向けた環境整備などによる暮らしや産業を支える持続可能な輸送ネットワークの確保による物流の効率化について追記

④地域のポテンシャルを活かした移住・交流の促進 (追加)

- ・地域の魅力発信による移住定住の促進、多様な関わりの構築

⑤健やかに暮らせるまちづくり (追加)

- ・公共空間の利活用等によるコンパクトでゆとりと賑わいのあるまちづくりによる「居心地良く歩きたくなる」空間の形成やエリア価値の向上
- ・健康なまちづくりの観点からの快適な歩行・自転車空間の確保による快適な暮らしの実現

3. 進め方 (P33～P39)

- 「北の住まいるタウン」の取組を効果的に進めていく上で [地域課題の整理] → [将来ビジョンの共有] → [取組の推進と検証] という流れを提示し、それぞれ進めていく上での推進ポイントを記載

《参考》モデル市町村の取組事例 (追加)

まちづくりの取組事例として当別町及び鹿追町の取組について記載。

○社会情勢の変化（未来技術の活用）による追加

○検討協議会の意見を踏まえ追加

○社会情勢の変化（新型コロナの影響）による追加

○検討協議会の意見を踏まえ追加

○ //

○北の住まいるタウンの取組を効果的に進める手法を再整理

○北の住まいるタウンの取組の理解がより深まるよう追記

V. 北の住まいるタウンの実現に向けて

1. 地域を支える多様な主体の役割 (P40)

- まちづくり会社やコミュニティソーシャルワーカーなどを新たな担い手としての活用について追記
- 民間事業者が参入しやすい環境づくりについて追記
- 大学などの教育研究機関にまちづくりを担う人材の育成や地域課題の解決に向けた助言等、地域を支える役割を期待することを追記

2. 道の役割 (P41)

- 道内外の先進的な取組事例や手法をガイドブックやホームページによる紹介により普及啓発することを追記
- 市町村に対する支援に国や道の支援制度の情報提供や人材育成のためのセミナー実施について追記

3. 地域づくりを支える連携 (追加) (P41)

- 地域の情報をホームページやSNS等を活用した積極的なPRによる関係人口の創出や拡大について記載
- ふるさと納税やクラウドファンディングによる民間資金の活用の有効性について記載

- 検討協議会の意見を踏まえ追加
- メイヤーズフォーラムの意見を踏まえ追加
- 検討協議会の意見を踏まえ追加

- 現「考え方」策定後の道の取組について記載
- 市町村への聞き取り、検討協議会の意見を踏まえ追加

- 最近の動向を踏まえ有効な連携方法を記載
- //